

## Ⅱ. 推進地域における取組

推進地域市区町村教育委員会名 : 倉吉市教育委員会  
推進地域名 : 久米中学校区

### 1. 調査研究のテーマ

#### (1) 調査研究のテーマ

豊かな人間関係を育むコミュニケーション能力の育成  
～学校・家庭・地域の連携を通して行動化を志向する人権教育の推進～

#### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」では、人権感覚の育成等には、学校での人権学習を肯定的に受容するような家庭、地域の基盤づくりが大切であり、児童生徒と保護者、地域住民等と一緒に活動に当たることを通じて人権尊重の意識が広まるような取組の工夫に努めることなど人権教育推進にあたり学校・家庭・地域の連携の重要性が強調されている。

平成24年9月の倉吉市「人権・同和問題に関する市民意識調査」に、人権侵害を受けたことがある市民の対応を問う項目がある。最も割合が高い回答である「友人・同僚・上司などに相談した」でも3割以下で、2割は「何もしなかった」と回答しており、「差別をなくすための行動化の難しさ」「人間関係の希薄化」が懸念される。同和教育の歴史と伝統を持つ久米中学校区では、毎年集落で開催される人権教育の町内学習会に中学校3年生も参加するというユニークな取組があるが、生徒の保護者も含めて住民の参加率は高くなく充実した研修とはなりにくい集落もある。問題解決につながる主体的、実践的な取組が一層求められるわけだが、その取組には学校・家庭・地域の連携が欠かせない。

本校区小中学校は昭和40年代に文部省・鳥取県教育委員会の同和教育研究指定を経験した。昭和50年には久米中学校区同和教育研究会を設立し、「地域ぐるみで取り組む同和教育～あらゆる差別を許さない子どもと地域づくりをめざして」をテーマとして、地域と学校とが一体となって研究実践を継続してきた。近年は人権教育へと発展的に再構築し、「就学前・小学校下学年部会」「小学校上学年・中学校部会」「社会教育部会」の3つの部会で活動し「思いを伝え合う・人権意識を行動に結びつける」をキーワードとした研修会を毎年開催している。さらに平成23年度には、小中連携の推進をめざして校区にある3つの小学校と中学校とが新たに「久米中校区小中学校連絡協議会」を立ち上げ、「自信を持って思いを伝え合える子どもの育成」をテーマに、5年間活動してきた。その専門部会の中には「人権教育部会」を設け、久米中校区同和教育研究会と密接に連携して取組を推進している。

このように、同和教育で培った歴史を土台としながら校種間、地域との連携をもとに行動化につながる人権感覚の育成、とりわけ他者との共感やコミュニケーションに係る力の育成に努めてきている。現在では、校区の児童生徒を対象に実施した「人権教育に関わる資質・能力アンケート」で「偏見にとらわれない科学的なものの見方や考え方がどういうものかを知っている」「人権問題の中でその内容や現在の課題について知っているものがある」の2つの項目では、中学3年生のほぼ100%が肯定的な回答をするなど、人権に関わる意識や知識に自信を持っている状況がある。一方、「他の人の思いや考えを大切にしながら、自分の意見をはっきりとすることができる」は2年生70%、3年生90%、また、「差別や不合理なことに気づいたとき、それを解決するためのいくつかの方法を持っている」は2年生60%、3年生80%で、倉吉市の調査と同じ「行

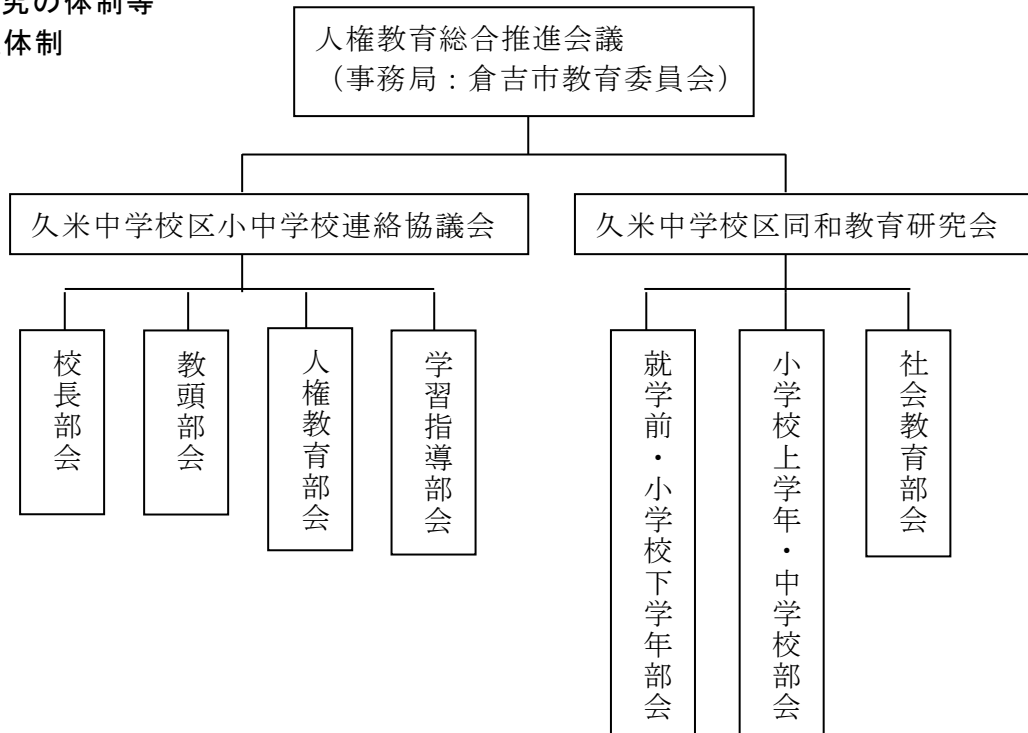
動化」の難しさが窺える実態が依然として若い世代にも続いている。これらの課題を解決するためには、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」こと、つまり、自分自身の心と頭脳と体を使って、主体的、実践的に学習に取り組むよう仕組んでいくことが不可欠であると言える。

このような状況に鑑み、平成27年度は鳥取県教育委員会の「学級づくり・人間関係づくり推進事業」を活用して話合いの活性化を中心とした学級づくりの研究を小中連携して行い、授業中や生徒会活動での言語活動の充実など一定の成果が見えた。

平成28年度は、これまでの取組の成果を踏まえ、学校教育のみならず、町内学習会をはじめ地域の人権教育関係の研修、PTAの研修の充実を図り、学校・家庭・地域の連携を通して豊かな人間関係を育むコミュニケーション能力の育成をめざし行動化を志向する人権教育を推進すべく本テーマを設定した。

## 2. 調査研究の体制等

### (1) 推進体制



<関係機関> ○鳥取県教育委員会

### (2) 人権教育総合推進会議の構成

所属・役職、資格、経験等	氏名
久米中学校区同和教育研究会長（北谷小学校長）	山田 正隆
久米中学校区小中学校連絡協議会長（久米中学校長）	福嶋 千寿子
久米中学校区小中学校連絡協議副会長（高城小学校長）	中野 章臣
久米中学校区小中学校連絡協議副会長（社小学校長）	米村 秀昭
北谷公民館長	森下 哲哉
高城公民館長	隅坂 義之
社公民館長	門脇 志伸
久米中学校PTA会長	本荘 学
北谷小学校PTA会長	田巻 健太郎
倉吉市教育委員会人権教育担当指導主事	矢田 佳代
久米中学校区同和教育研究会事務局担当者	伊藤 聖人
北谷保育園長	石賀 公子

さわやか人権文化センター担当者	前田 雄大
北谷地区同和教育推進協議会長	阪本 幸雄
高城地区同和教育推進協議会長	佐伯 孝代
社地区同和教育推進協議会長	由井 洋之助

### (3) 推進協力校の概要

学校名	学級数	児童生徒数 (平成 29 年 1 月 31 日現在)
倉吉市立北谷小学校	8 学級 (うち特別支援学級 2 学級)	全児童数：55 人
倉吉市立高城小学校	8 学級 (うち特別支援学級 2 学級)	全児童数：92 人
倉吉市立社小学校	14 学級 (うち特別支援学級 2 学級)	全児童数：290 人
倉吉市立久米中学校	8 学級 (うち特別支援学級 2 学級)	全生徒数：117 人

## 3. 調査研究の内容等

### (1) 調査研究の内容・実施日程

#### ①文献研究

- ・「ホワイトボード・ミーティング」「信頼ベースの学級づくり」に関する書籍を各学校・公民館に配布し、人権教育担当者が中心になって話し合い活動の活性化、ファシリテーターの在り方について研究し、各組織での具体的な実践を提案した。

#### ②先進地視察

- ・地域や学校で人権教育の視点で「ホワイトボード・ミーティング」の手法を取り入れて実践している先進地を視察し、各組織での実践に活かした。

#### ③研修会開催（講演会・ワークショップ・実践発表等）

- ・「ホワイトボード・ミーティング」の理念と実践の在り方について研修した。
- ・学校、地域や P T A での人権教育推進者を中心にファシリテーションのスキルに関わるワークショップを設定した。
- ・校区の各学校、P T A や県外の先進校での話し合い活動の活性化を目指す実践について情報交換の機会を設定した。

#### ④授業研究会開催

- ・「ホワイトボード・ミーティング」の手法を取り入れた授業を公開し、指導方法について具体的に研修するとともに講師の助言を受けた。

期 日	内 容	備考
4 月 2 6 日	倉吉市人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委 2 人）	9 人
5 月 2 0 日	第 1 回人権教育総合推進会議 (研究計画細案について協議・検討)	1 7 人
6 月	久米中学校区小中連絡協議会（校長部会） 参考文献 2 冊ずつを各校・公民館に配布 『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座 ～17 日で学ぶスキルとマインド～』 ちよん せいこ著 解放出版社 『ファシリテーターになろう！ ～6 つの技術と 1 0 のアクティビティー』 ちよん せいこ、西村 善美、松井 一恵（共著） 解放出版社	
6 月 6 日	久米中学校区小中学校連絡協議会拡大役員会 (年間研究計画・小中合同授業研究会の計画・先進地視察の計画)	1 1 人

6月21日	久米中学校区第1回合同授業研究会（会場：社小学校） 講師：ちょん せいこ氏（株式会社ひとまち） 授業者：岡崎 精湖教諭（5年国語） 鳥取県教育委員会 指導主事 山本 裕児	42人
8月4日	久米中学校区人権教育研修会兼校区同研小学校上学年・中学校部会研修会（会場：社公民館） 講師：ちょん せいこ氏 鳥取県教育委員会 係長 寺谷 孝志	69人
8月19日	北谷保育園人権教育研修会（保護者会人権教育推進委員会）	10人
8月22日	北谷地区町内学習会事前研修会でホワイトボード・ミーティングを紹介 校区小中学校合同夏季研修会（会場：社公民館） 講師：水田恵美氏（株式会社ひとまち） 実践発表：新崎雄祐教諭（大阪府大東市立四条北小学校） 稲川斉昭教諭（大阪府大阪市立片江小学校） 鳥取県教育委員会 指導主事 山本 裕児	28人
9月12日	校区同研就学前・小学校下学年部会、社会教育部会合同研修会（会場：社公民館）	77人
9月26日	先進校視察・研修（大阪府大東市立四条北小学校）	10人
10月7日	久米中学校区第2回合同授業研究会（会場：久米中学校） 講師：ちょん せいこ氏 鳥取県教育委員会 係長 牧田 礼次郎 指導主事 山本 裕児	76人
10月14日	北谷保育園子育て教室でホワイトボード・ミーティングを実施	11人
11月25日	久米中学校区同和教育研究会発表会 （会場：北谷保育園・北谷小学校） ・公開保育 ・公開学習 ・各部会研究会	102人
12月～1月	研究報告書原稿作成	
1月31日	第2回人権教育総合推進会議 （年間の活動のまとめ・研究報告書内容確認） 鳥取県教育委員会 係長 寺谷 孝志 指導主事 山本 裕児	15人
2月23日	久米中学校区同和教育研究会総会で実践概要を報告	33人
3月1日	平成28年度人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委10人）	28人
3月上旬	各組織・関係機関に研究報告書配布	200部 校区小・中 保育園・公 民館・市教 委・県教委

## （2）調査研究の成果と課題

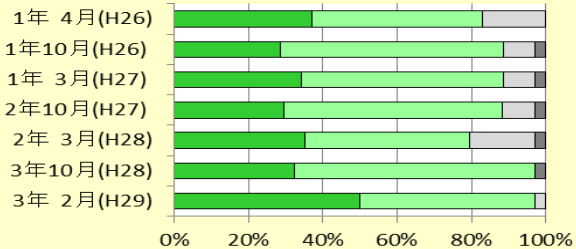
### ① 成果

「ホワイトボード・ミーティング」の手法を学校生活の様々な場面で活かしてきたことで、児童生徒のコミュニケーションに関する資質・能力に良い効果が出てきている。

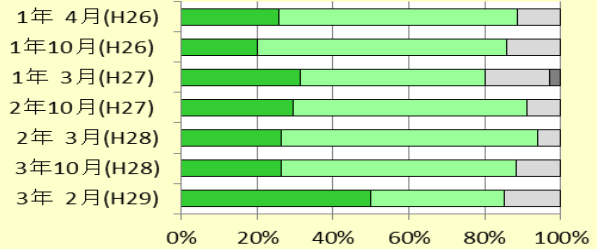
まず、校区で育てたい生徒像のゴールである中学校3年生に実施したアンケートで成果と課題を検証すると、3年の後期になって、「そう思う」という回答が前年度より倍増し、コミュニケーションへの自信が深まっていることが見て取れる。

(グラフは左から順に、そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わない)

私は、他の人からの忠告や助言を素直に受け入れることができる。



私は、他の人の思いや考えを大切にしながら、自分の意見をはっきり言うことができる。

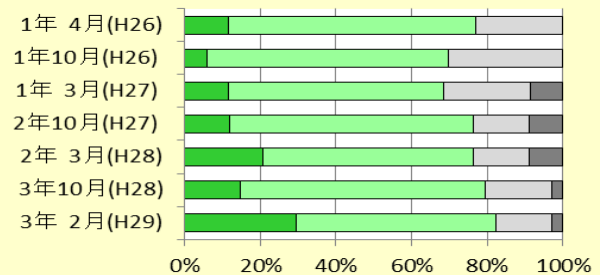


また、人権学習で学んだことを日常生活の行動に活かしていこうとする意識も高まってきている。

<生徒の感想より>

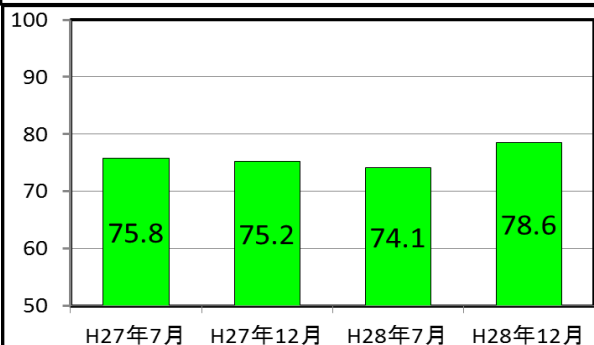
- ・ホワイトボードを使ってあそこまで詳しく話合いをしたことがなかったので、少しでも1年生、2年生、そして同級生のことが知れたと思う。深く話し合うことで話合いが成立する。これからも使ってみたいと思った。
- ・ホワイトボードを使って話合いをすることの楽しさや良さを知ることができ良かった。ホワイトボード・ミーティングが日常のコミュニケーションになっていったらいいなと思った。今日学んだことを活かしていきたい。
- ・今日学んだ話合いの仕方は社会に出て役にも立つことが分かった。ホワイトボード・ミーティングは大人になっても使えるので覚えておきたい。

私は、差別や不合理なことに気づいたとき、それを解決するためのいくつかの方法を持っている。

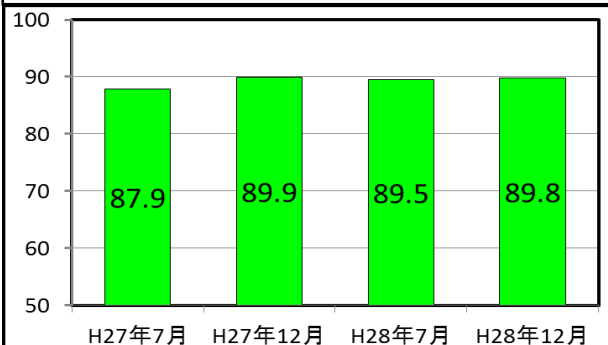


次に、校区小中学校児童生徒全員対象の共通アンケート結果を見ると、ここでもコミュニケーションに関する肯定的評価の割合が高まったり、高い水準を維持していたりすることが見て取れる。

自分の考えを説明するときに、相手にわかりやすく伝える工夫をしていますか。



何のために話し合うのかをはっきりさせて、友だちと話し合うことがよくありますか。



小学校での学習後の教職員の感想からは、「どの子ども自分の考えを話すことができた。」  
「これまで消極的だった児童がファシリテーターとして、グループの意見をまとめることに意欲的であった。」「発散→収束→活用で出てきた意見を色ごとに書き出すことで、自分たちの考えを短時間で整理し、共有することができた。」など、意見を出せたこと、グループのみんなと協力できたことに全員が達成感をもつことができたことがうかがえた。

保育園保護者研修会の参加者感想でも、「保護者さんとの意見交換ではホワイトボードを利用した話合いがとても楽しく、自分の意見をまとめやすくとてもためになった。」「保護者間のコミュニケーションをとる上でもこういう形の研修会は良いと思う。お互い小さな子どもを持つ父、母同士、悩みを相談したり、休日に子ども同士を遊ばせたりする良いきっかけになるかもしれない。」「今回の研修会に参加して、最初は誰とも打ち解けていない私にとって不安があったが、和やかな雰囲気の中での研修会で、皆さんが弾んで会話しておられたので楽しむことが出来た。」など、ホワイトボードを使つての話合いは、保護者にとっても、コミュニケーションの育成に効果的であった。また、園児も日常的にホワイトボードを使い、「間違えても大丈夫」という安心感から意欲的に取り組み、「先生、ホワイトボードがしたい」と声をかけてくるなどホワイトボードを活用したコミュニケーション活動が充実した。

久米中校区同和教育研究会参加の各公民館が取り組む「同和教育町内学習会」は、それぞれの地域が中心となりテーマを設定し行われる。それぞれの地区で、どこまで新たな「ホワイトボード・ミーティング」の手法を取り入れるかは、各公民館により温度差があるが、一様に取り組んだ。参加者からは「ホワイトボードを使ったコミュニケーションの講演会に行きました。ボードを使うと、人前で発表しにくいという人も自分の意見を出せるので、どんどん活用して行ってほしいと思いました。」という感想もあり、話合いを活性化させる上では有効であった。

## ② 課題

### ・ファシリテーターの育成と連携の工夫

ある程度経験のあるファシリテーターの存在が研修会等の運営の成否を大きく左右する。今後はこうしたファシリテーターの育成も踏まえた事業展開が必要となる。ファシリテーターを中心に地区公民館や保育園などと連携して研修会を継続していくための工夫が必要である。

### ・用具の整備

小型のホワイトボードは非常に便利であるが、特に各地区公民館において、すべての地区で人数分そろえることは直ちには難しい。今年度の経験を踏まえて整備を進めていきたい。学校においては、グループで話し合う際に使いやすい中型のホワイトボードやそれを立てて説明する際のイーゼルなどの導入も今後ますます進めていく必要がある。

### ・組織としての研究の継続

既存の2つの組織をもとに事業を推進した。それぞれの組織の特色を生かしながら、今後も学校・家庭・地域が連携して豊かな人間関係を育む実践を続け、特に中学校3年生も参加する集落ごとの人権教育町内学習会をさらに充実させていきたい。